

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	有限会社 劇団東京芸術座
公演団体名	劇団東京芸術座

内容
1) 参加学年（応相談） 2) 児童生徒の参加シーンを、セリフのない「ダンスシーン」のみに縮小します。 ※ オープニング「アスリートダンス」 → 本編幕開きの、水泳をモチーフにしたダンスパフォーマンス。レースに臨むアスリートの心情、緊張感、躍動を表現します。（出演者／3～10名） 3) 出演者以外の児童生徒へのワークショップ（参加人数は、学校と相談の上決定します） ※ 児童生徒との接触を最小限にする目的で、学校の要請による「ワークショップのみ実施 / 本公演は観劇のみ」の形態も検討します。

タイムスケジュール（標準）
13:00 学校（会場）到着。→ ご挨拶の後、短時間での打ち合わせ 13:20 参加者集合、挨拶の後、ワークショップ実施。 14:30 全体集合。成果発表。 14:45 ワorkshop終了。挨拶の後、退校。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
派遣人員／5～6名（参加学年人数により対応します。） 内訳例／例1（参加人数40名以下）→5名 例2（参加人数41名以上）→6名

学校における事前指導
1) 上演台本、本編収録のDVD、本事業の概略を記載した「手引き」の郵送。 2) 出演予定者名簿の作成と、弊社への返送。 ※ 出演者以外のワークショップの希望を確認。 3) 会場の設定。 ※ 参加人数により、1～5会場を設定。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	有限会社 劇団東京芸術座
公演団体名	劇団東京芸術座

<p><b>演目</b></p> <p>「Challeng-ed (チャレンジ・ド) -遠い水の記憶-」 上演時間 / 120分 (休憩10分)</p> <p>原作 / 神品 正子      脚本・演出 / 印南 貞人                  美術 / 幡野 寛      音楽 / 川本 哲      照明 / 矢口 雅敏                  効果 / 中嶋 直勝      衣裳 / 山田 靖子</p> <p><b>過去採択実績</b></p> <p>平成21年度 本物の舞台体験事業                  令和元年度 文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—                  令和2年度 文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—</p>
--

<p><b>派遣者数</b> ※派遣者数の内訳を御入力ください</p> <p>派遣人数 19名</p> <p>内訳 / 出演者 13名                  スタッフ 6名</p>
--

<b>タイムスケジュール (標準)</b>					
到着時刻	設営作業	本公演	内休憩	撤去作業	退校時刻
7:30	8 ~ 13:00	13 ~ 15:00	10	15 ~ 17:00	18:00
<p>当日の設営 (あり・なし) 会場設営所要時間 (5時間程度) ※絶対条件ではありません。                  前日設営作業は、2時間程度。会場条件により異なります。                  途中10分間の休憩を設けます。</p>					

<p><b>実施校への協力依頼人員</b></p> <p>学校側のご希望により、ワークショップを含め、先生方の参加・出演も可能です。</p>
--

## 演目解説

### <あらすじ>

ロンドンオリンピックの平泳ぎ種目でメダルを期待されていた高橋は、代表選考を兼ねた日本選手権で予期に反して三位にとどまり、オリンピック出場のチャンスを逸する。競技者としての将来を思い悩んでいたところ、ある盲学校の校長から「体育教師として生徒たちに水泳を教えて欲しい」と懇願される。

教職につきながらも心の奥底に挫折感を秘めた高橋、社会からの「悪意のない同情」に反発する傷つきやすい生徒たち。高橋は自身の人生を見つめ直すため、自分の学んだことを生徒たちに伝えるために、再び日本選手権にエントリーする。そんな高橋に生徒たちは共感し信頼を寄せはじめる・・・

この作品は、水泳という競技にとどまらず人間の本来の生き方について問いかけます。負の過去を背負った若者たちがそれぞれの悩みと真摯に向き合いながら、“一緒に泳ぐこと”を通じて無くしかけたものを取り戻し、再び挑戦者として歩み始める姿を、スポーツの持つ清々しさと力強さを生かしたタッチで描いています。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

1. 振り付けを覚えることに終始せず、ダンスの形式によって表現しようとする内容に重点を置き挑戦して貰うことで、総合芸術である演劇に対する関心を深め、本公演への期待を高めます。
2. 学校の希望がある場合は、出演者以外の児童生徒へのワークショップも実施します。

## 児童生徒とのふれあい

本公演直前のリハーサルまで児童生徒の自発的な発想、行動を促しながら、本公演では一つの作品創造に関わる一員だという自信と達成感を感じてもらえるよう心がけます。